

方剂名	効能	生薬組成
書籍	主治および証	病機 方意
<p>温裏剤 回陽救逆剤 6</p>		
<p>かいようきゅうきゅうとう 回陽救急湯</p>	<p>回陽救逆・益気生脈</p>	<p>熟附子 9g・乾姜 9g・肉桂 3g・人参 6g・炒白朮 9g・茯苓 9g・陳皮 6g・炙甘草 5g・五味子 5g・製半夏 9g・生姜 6g・麝香 0.1g (調服) 麝香以外を水煎し、麝香を混和して服用する。</p>
<p><主治> 陰寒内盛・陽気欲脱 寒がる、縮こまって寝る、四肢の冷え、嘔吐、下痢、腹痛、口渇がない、元気がない、うとうとする、口唇や爪のチアノーゼ、舌質が淡白、舌苔が白、脈が沈微で甚だしければ触れないなど。</p> <p><病機> 陽虚に乗じ寒邪が三陰に直中して陽衰欲脱になったり、中暑の大汗、嘔吐、下痢などで傷津耗気して陽気虚脱を引き起こした危急状態である。</p> <p><方意> 本方(回陽救急湯)は、四逆湯合六君子湯に、肉桂・五味子・麝香を加えたもので、回陽救逆と益気生脈を兼ねている。 熟附子は生附子ほど回陽の力が峻烈ではないが、乾姜・肉桂の補佐によって、温陽散寒の効力が強くなる。人参・白朮・茯苓・甘草・半夏・陳皮・乾姜は六君子湯で、脾胃を補益して中焦を固守し、陽虚の水湿不化による痰飲を除く。人参と五味子は益気生脈に働き、麝香は一举に十二経の血脈を通じ諸薬を行らせ、酸収の五味子の配合により虚陽散越の弊害がない。全体で脈を回復させ嘔吐、下痢を止め、チアノーゼを解消する。</p> <p><参考> 本方(回陽救急湯)は、辛熱の峻剤であるから多服してはならず「手足温和すればすなわち止む」と注記されている。</p> <p>加減法 涎沫を嘔吐しあるいは少腹が痛むときは、呉茱萸を加えて温胃暖肝、下気止嘔する。 陰盛格陽で脈が回復しないときに、苦寒の猪胆汁を反佐とし、辛熱薬の拒格不入を防いで、回陽の効果を強める。 陽気衰微で固陰できず下痢が止まらないときは、益気昇陽の升麻と黄耆を加えて、陰気下脱を防ぐ。 嘔吐が止まなければ、生姜汁で温胃して、嘔気を止め、煎薬を吐出しないようにする。</p>		